



## 保健衛生学部長 就任のご挨拶

保健衛生学部長

長谷川 みどり (9回生)

このたび、2025年4月1日付で藤田医科大学保健衛生学部長を拝命いたしました長谷川みどりです。

1986年に医学部を卒業後、中京病院での研修を経て、大学院在籍中の1年間にトヨタ記念病院で勤務いたしました。その後は母校に戻り、多くの学びと支援を受けながら、医師として、社会人として多くを学ばせていただき、成長の機会をいただけてまいりました。

初代教授・川島司郎先生からは、丁寧な診療の基本、全身を診る姿勢、そして患者さんの社会的背景を踏まえた対応の重要性をご教示いただきました。二代目教授・杉山敏先生のもとでは、アフレシスの介入研究や血管炎の診療において貴重な臨床経験を積む機会をいただきました。三代目教授・湯澤由紀夫先生には、グローバルな視点からの研究発展の意義と管理職としての心構えについてご指導を賜り、2014年6月には臨床教授にご推薦いただきました。また、2016年2月から2025年3月まで約9年間、医療連携福祉相談部の部長を兼任する機会もいただきました。現在の四代目教授・坪井直毅先生には、私のこれまでのキャリアをご理解いただき、適切なお助言のもと、腎臓内科における臨床・教育・研究活動に携わらせていただいております。こうした諸先生方をはじめ、多くの先輩・同僚・後輩の皆様に恵まれたことが今日までの私の支えであり、心より感謝申し上げます。

医療連携福祉相談部在任中は、多職種のスタッフ（医療ソーシャルワーカー、看護師、事務職員、公認心理師、薬剤師、医師）と協働し、医療連携と患者支援の推進に努めてまいりました。地域の医療機関からの患者さんの受け入れや、大学病院からの紹介に際しては、卒業生の先生方から温かいご支援を賜り、そのご尽力に深く感謝するとともに、心強く感じております。

保健衛生学部では、「臨床」と「研究」の両面から実践的な看護・リハビリテーション教育を推進しております。

リハビリテーション学科では、質・量ともに充実した臨床実習を通じて、理学療法士・作業療法士としての高い資質を育成しています。また、言語聴覚士教育は保健学研究科で行われ、特に摂食・嚥下障害に関する研究は国際的にも高い評価を受けております。医学部リ

ハビリテーション学講座の医師との共同研究も活発に展開されています。

看護学科は、過去9年間にわたり国家試験合格率100%を維持しており、学生一人ひとりに寄り添った粘り強い指導体制が確立されています。社会実装看護創生研究センターでは、褥瘡、末梢静脈確保困難、誤嚥、リンパ浮腫、便秘など、臨床現場で切実な課題に対する実践的研究を推進しております。

国際交流にも積極的に取り組んでおり、海外からの留学生を学部生として受け入れ、日本の国家試験合格へと導いた実績もございます。現在は、大学院修士課程に6名、博士課程に1名の留学生が在籍し、グローバルな教育環境の充実を図っています。

本学部には多くの卒業生が教員として在籍しており、母校の発展と卒業生の皆様のご活躍を願う熱い思いに日々励まされております。その思いに応えるべく、今後は学部長として、リハビリテーション学科および看護学科のさらなる発展と、教育・研究の一層の充実に努めてまいります。

「Fujita VISION 2030」に掲げられた「その時、いちばん動ける藤田学園へ」の実現に向け、教職員の皆様と力を合わせて歩んでまいります。

藤医会の皆様には、今後ともご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



向かって左から、

看護学科長 世古留美先生、副学部長 稲本陽子先生、学部長 長谷川みどり先生

リハビリテーション学科長 櫻井宏明先生